

ひるまだより

医療法人社団トモニアユム
ひるま矯正歯科
Hiruma Orthodontic Office

発行:ひるま矯正歯科
〒190-0012 立川市曙町2-9-1菊屋ビルディング2F
TEL:042-526-3376/FAX:042-528-1102
URL:<http://www.hiruma.or.jp/>



ユニフォームをリニューアルしました!!

特集

患者さんインタビュー⑪

後遺症が心配でしたが、先生の後押しで外科矯正を決意されたKさんにお話を伺いました。インタビューの内容をダイジェスト版でお届けします。全文はホームページで。

「不安もあつたけれど外科矯正して良かつた」



◆ 先生から外科矯正をすすめられた時の気持ちは?

——検査の結果、僕の場合は「歯のずれよりも、あご

つか噛めるようになりたいと思っていました。付き合っている彼女がひるま矯正歯科で矯正治療していく「すごくいい病院だから、ここで治してみたら」とすめられ決めました。

◆ ひるま矯正歯科を選んだのはなぜですか。

——小さいころから歯のかみ合わせが悪くて、ラーメンやうどんなどの麺や、いんげん豆がうまく噛めず、い

の骨のずれのほうが大きい

ということでした。「形成外科で、あごの骨をけずつてそれを直す手術を受けてかみ合わせも良くならない」と

診断され、外科手術を受け

て矯正治療する「外科矯正」をすすめられました。手術のあと、口の回りの麻痺などといった後遺症の可能性を知り、正直なところ、治療を受けるかどうかかなり

悩みました。

先生にメールでいろいろ相談をしたので

すが、そのたびに親身に答

えてくれ、「不安もあると思

うけど、案ずるよりも産む

が易し。大丈夫ですよ」と、

最後は先生が背中をおして

くれ、よし、受けようと思つて決めました。

◆ 手術はどうでしたか。

——手術日の前日に病院に行つて検査や手術の説明を聞き、翌日手術。手術の前は緊張しましたが、全身麻酔で目がさめたら手術は終わつていて、担架に乗せられたまま、病室へ向かう工

心配されていた後遺症もなく、なんでも噛めるようになったというKさん。本当に良かったです。(N)

レベーターの中で目が覚めました。その夜は、麻酔の影響でのどが痛くてつばがのみこめず、ほとんど眠れない状態で、とてもつらかったです。

手術後1週間くらいは、口がワイヤーで固定されたまま開かないで、鼻にチューブをつけられ、そこから栄養を入れる形での食事でした。その後日々に普通の食事に戻り、後半1週間は、口を少しずつあける練習を行い、2週間くらいで退院しました。心配だった後遺症も、手術直後に下唇がピリピリしたくらいですぐに治り、その後はありませんでした。



Kさんの症状について解説します

●初診時の診断:「開咬をともなう骨格性下顎前突症」

Kさんは骨格的に上顎骨および頭蓋に対して下顎骨が前下方に位置し下顎面高は大きく、下顎全体の突出感、下唇やオトガイ部（下顎骨先端）の突出感が顕著です。また口唇閉鎖時の緊張感（オトガイ周囲の皺）を認めました。

治療方針としては、開咬や反対咬合の原因は主に下顎骨の過成長によるものと診断、骨格のズレ、骨格と軟組織の不調和が大きい事から外科矯正治療による下顎骨の後退と親知らず（第3大臼歯）の抜歯による軽度叢生の改善を提案しました。しかし外科矯正治療では全身麻酔による手術および10~14日の入院が必要な事、手術後に知覚の麻痺が残る可能性がある事などから十分に検討していただいたから治療を開始する事としました。

治療結果は、外科手術により下顎骨を後方に後退、下顎骨の突出感の改善、下顎面高の減少による口唇閉鎖時の緊張感が改善しました。本症例は叢生が少なく歯性の問題は小さかったため外科手術を行う事で短時間で改善する事ができ、懸念していた外科矯正による知覚の麻痺もほとんど認められませんでした。

